

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 - )

事業所番号	0670801109		
法人名	株式会社 ケアサービス鳥海		
事業所名	グループホーム まいづる		
所在地	山形県酒田市麓字横道10-8		
自己評価作成日	平成 25 年 7 月 5 日	開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と利用者の関係は、家族の一員として生活が営まれるように日々努力しております。時に感情的な行為があったとしても、家族だからこそその行為として認めあえる信頼関係を目指しております。個々の尊厳を大切に安全で心地良く、なじみの暮らしをお互いに支え合い、充実したサービスを提供することは当然と感じています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 25年 8月 8日	評価結果決定日	平成 25年 8月 29日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣には公共施設が立ち並び旧八幡町の中心部にデイサービス、有料老人ホーム、グループホーム、の複合型施設として開設され、グループホームは8年目を迎えています。管理者をはじめ職員は「認知症の人と生活を共にし、暮らしを支え命を守る事」を大切にしながらケアに努めています。開所当時の利用者もおり、身体、精神的に変化する中で、時には利用者同士の感情的な行為等が見られても、家族だからと認め合える関係にあり、職員も利用者にありのままの素直な気持ちを伝えるなど信頼関係を築いています。一人ひとりの思いを受け止め、「あたりまえの暮らし」(食事、トイレ、排泄、睡眠など)が出来る事を心がけ、住み慣れた地域で穏やかに過ごせるよう支援している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームとは？「認知症の人と生活を共にし、暮らしを支え命を守る事」開設以来、対面式の流し台の上に貼り付けして意識付けを促している。又、ケア目標を朝の申し送り時に皆で読み上げ、今日も安全で普通に一日過ごせます様にとの思いを込めています。	朝のミーティング時にケア目標を唱和し、意識付けを図り実践に繋げている。利用者一人ひとりに寄り添い、信頼関係を築きながら互いに笑い合い、共に楽しみ、家族のように普通の暮らしが出来るよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	概ね2週間ごとに図書館に向向き、自分の読みたい本など借りてきており、図書館の職員とも顔なじみとなっている。又、毎週3回、食材の買出しにも同行しスーパーの職員や地域住民の方々より、「今日は何食べる」等声掛けてくれる人も多くなってきているのを実感しています。	法人全体での夏祭りや、各種行事へ参加し住民との交流がある。毎月ボランティアの訪問があり、キーボードに合わせて唄ったり、登校時に児童への声掛けなどで利用者の笑顔が見られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎朝7時30分過ぎに、小学校の登校隊が施設脇の歩道を通学するため、窓を開け「行ってらっしゃい・気を付けて」等の声掛けは続けており、小学生からも「行ってきまーす」と返答が聞かれています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画予定に沿って毎回進めていますが、昨年の自己点検表の内容で理解できない部分があり、運営推進会議の際に委員の皆さんよりコメントいただき理解できたケースがありました。又、事故報告をした際もいろんな助言を頂き、その後の対応に繋がる部分は大きいと感じています。	毎回テーマを決め定期的に開催し、小さい事もありのまま報告を行い、メンバーからは意見、要望も出され活発な会議となっている。担当者からは自己点検の内容(協力機関との事項の取り決め)の不明点の説明を受ける等、より良い運営に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課に転倒骨折に至るケースの報告の後、報告書を提出しています。又、酒田市の福祉課では生活保護受給者の方を定期的に訪問面接に連れられ現状報告を行い、今後の対応についての相談においては指示指導など仰いでいます。	年2回の酒田市主催入所部会への出席で意見交換を行っている。毎月市担当者から生活保護受給者へ訪問面接を受けるなど情報を提供し、協力関係を築きサービス向上に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	本人の命を守るため、やむを得ない場合のみ身体拘束の必要性を説明し、承諾を得た上で期限を設定し同意書ももらっている。又、改善が得られた場合は、随時報告し家族と相談の上で中止とし見守っているケースも昨年ありました。	身体拘束をしないケアについて、新人研修やケアの現場で、その都度現任職員が指導し理解を深めている。家族等から要望があった場合など話し合いをし、声掛けの工夫や安全を確保しながら見守りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士で対応や言動が不適切な場合、その場で直ぐに皆で話し合い、どう対応や助言して行くか随時検討し、安心して穏やかに生活出来るよう心掛けています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、二名の方に後見人がおられ、職員は制度を理解した上で、随時報告や連絡等を行い現状把握できるよう援助行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解と同意が得られるよう、これまでと同様、説明には十分努力しています。入院期間が長くなった場合は家族や病院にも状況確認を行い、継続できるよう助言に努めています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族の方へは、不満や不平を来さぬよう随時コミュニケーションを心掛け、共に利用者を支えていると言う意識付けを心掛け、家族も一緒に考えてもらう等、随時の対応を心掛けています。	家族等には毎月生活の様子を報告している。運営推進会議のメンバーでもある家族代表の方は週に一度来訪され、普段の様子を見てもらい、理解を得て助言をもらうなど運営に活かしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題が発生した場合は、状況や状態を確認の上、共に解決策を提案しベストな状況にもって行けるよう対応に当たっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者としては、営業実績を勘案しながら就業環境の整備に努力しているものと思われるが、代表者のその意思が必ずしも職員に伝わらない面も多々あるように思われる。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	庄内グループホーム連絡会を通し、年間可能な限り研修内容に応じ適切な職員に参加してもらい、知識及び技術向上に努めています。	県グループホーム連絡協議会庄内ブロックの基礎研修やリハビリ等の外部研修に職員の段階に応じ、年一回は参加出来るよう配慮している。参加後は伝達研修でレベルアップを目指している。内部ではメンタルヘルスの合同研修を行い意見交換の場を設け、職員が働きやすい環境の整備が前向きに検討されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	酒田市の地域密着型サービス部会等の研修に参加し、他事業所の方達と不安な事や悩んでいる事等、情報交換にてリフレッシュ行い、次の意欲向上に繋がるよう心掛けています。	県グループホーム連絡協議会庄内ブロックや酒田市地域密着型サービス部会の研修へ職員も交替で参加し、情報交換を行い交流をしている。庄内ブロックでは9月に利用者同士の交流会も予定されサービスの向上を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活歴や病歴、また入所に至る経過を全て把握した上で、家族の協力も得ながら信頼関係が早期に構築できるよう心掛け、傾聴とコミュニケーションに心掛け対応に当たっています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケア目標に沿って生活を支え、家族の皆さんの協力を頂きながら早期に不安を解消し、安心して生活出来るよう援助に当たっています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設生活を共にする上で、事前情報を基に暫定プランを家族に提示し、了解を得ながら対応に当たっています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、日常生活を共にし様々な人生経験をヒントに頂きながら、職員も支えられていると言う意識を持って接するよう努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や自宅との絆が途絶えないよう、家族と施設が情報を共有しあい、外出の機会が得られるよう援助しています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	花見ドライブの途中で自宅の近くを通った際、「家が、どうなっているか見たい」との要望に応え自宅に立ち寄り、本人が納得し「安心した！」との一言で職員も救われました。又、機会があれば要望に応えたいと感じています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度の程度や性格的なことを考慮し、テーブル配置を工夫する事で会話がスムーズに出来たり、出来るだけトラブルが回避でき、利用者同士の関係が良好となるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し特別養護老人ホームに入所された方に対しても、機会があるたびに仲の良い利用者と一緒に面会に出向いたり、家族を見かけた際には、「その後、元気ですか？」等の声掛けを行うよう心掛けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「図書館に行って、本を借りて読みたい」「何でもいから外出して、外の空気を吸いたい」それぞれの思いや意向があり、自分で伝えられる方に対しては個々のケアプランに組み入れ援助を行っている。伝える事が困難な方に対しては、もし自分だったり自分の親だったらこうして欲しいのかな？と随時判断し対応に当たっています。	意向を訴えられる方はケアプランに組み入れている。困難な方は家族等からの聞き取りや、関わりの中で利用者寄り添い、日頃の気づきや変化を見逃さないようにし、職員同士で情報共有しながら思いに沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な場合、家族より入所時にこれまでの生活歴や暮らし方を聞き、利用者の状況把握に努めながら現在の認知度と兼ね合わせた上で、対応に当たっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の日常の情報を共有しあい、成功事例や失敗に至ったケースなど報告し、日々現状の把握に努めた対応を心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々にはほぼ三ヶ月ごと、職員一人ひとりの課題についての意見をいただきながら継続なのか中止なのか？又、新たな課題が発生していないか、検討した上次のプランにつなげています。	利用者一人ひとりのケアプランに職員全員が目を通しコメントを書き、意識付けをしている。3ヶ月に一度モニタリングをし、日々の施設介護経過及び生活記録を基にカンファレンスを行い、家族等の意向や気づきを見直し等に反映させている。「穏やかなあたりまえの暮らし」ができる事を大切に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に介護経過と生活記録を連動しながら一枚の用紙に分けてあり、特記については申し送り時に報告し、詳細については個人記録を確認しあい、情報共有と実践に生かせるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前回借りていた本を戻しながら、次に借りたい本を図書館の職員と共に相談し、本人が選び借りてくる等の支援を継続している。又、食材の買出しの手伝いや、個人の日用品の買物等、地域資源を有効に使い安全に配慮しながら支援に当たっています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に施設職員付き添いのもと、定期受診援助に当たっています。緊急時に対しては随時家族にも相談し、判断を仰いでいただいたり、状況によっては救急車等を使用し早期受診に心掛けています。病院のスタッフともなじみの関係にあり、ありがたいと感じています。	利用者の日頃の健康状態をよく知っている職員が付き添い、受診している。協力医療機関でもある市立八幡病院の定期訪問診療があり、緊急時や入院対応など健康管理全般に関わってもらい安心に繋がっており、受診結果は家族等も共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調など不安な状態や状況の場合、職員複数で相談した上で、看護師に報告し確認してもらい、助言指導を頂く等の対応に当たっています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	高齢で重度化となっており、訪問診察が三名で他は定期受診となっていますが、施設対応困難と感じた場合は、受診を行い安定するまで入院しましょうか？と医師より勧められたり、施設としては大変助けられています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	脱水と発熱で医療機関に入院、4週間後退院し再入居するも、全介助レベルまで低下状態のため区分変更申請にて要介護 3 から要介護 5 となる。入浴が困難状態で、本人にとっては施設生活継続が厳しい状況にあり、家族より特別養護老人ホームへアプローチしていただくと共に介護専門員意見書を提出している。	利用者の状態変化に応じて家族等と話し合いを重ねている。経口摂取が出来なくなった時を目安に家族等の要望を確認しながら、医療機関との連携や見込みを含めて方針を統一して、希望に沿えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは常備しており周知徹底しているものの、職員の配置変更により徹底出来てない面もある。今後再検討を図り対応できるように整えたいと考えています。		/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画担当者により、新入社員の事前教育に加え、夜間を想定した避難訓練を一人当たり2回をめぐりに実施している。その他年2回の総合訓練や緊急連絡網による伝達訓練を実施しています。地域との協力体制については未整備の面もあり、今後の課題として検討中である。		毎月、併設の同法人事業所と合同で夜間想定した避難訓練を、全職員が年2回の輪番制にし、総合訓練も消防署指導の下実施している。備蓄は飲料水をはじめ一つにまとめて災害に備えている。	地域との災害時協力体制は、区長や地元消防団に口頭で要請し了解を得ているが訓練への参加まで至っていないので、あらゆる場面を想定し関係機関や地域に理解と協力をさらに働きかけることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時の言葉掛けに対しても、なるべく気分を損なわないよう努めていますが、その時の気分なのか強い抵抗に至り大声で騒いだり誘導困難に陥るケースがあり、少し間を置き別の職員が対応行うなどプライバシーに配慮して取り組んでいます。		食事から排泄まで「普通の暮らし」が出来るように、利用者一人ひとりに合わせたさりげないサポートを職員は心がけている。得意なことをしてもらったときに感謝の言葉をかけると笑顔が返ってきて、利用者の満足した様子が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の衣類や靴を購入する際は共に出向き、自分の気に入った好みの洋服等アドバイスしながら自分で選択できるよう援助に当たっています。		/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	広告紙を使い、箱折や鍋敷きを作り続け、それを売れるんだと言い張り紙がある限り続けている。紙が無くなると「紙あたらしくしてくれの一、注文さっでるおんださげ」と依頼される、それも一つの自分らしいペースなのかも知れないと考え見守っています。		/	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に着る洋服を一緒に選んだり、かかりつけの美容師が髪カットやパーマを掛けに来たり、本人及び家族の希望に沿い施設で出来る限りの協力を努めています。		/	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	午前のティータイム後に利用者の方より「今日は何を手伝いしましょう？」と声掛けられる。昼食材の下ごしらえを毎日、出来る事を分担し手伝ってもらっている。昼食時「これ、さっき種取りしてもらった南瓜だよー、美味しいねー」等の会話がはずみ、笑顔が嬉しい限りです。		昼食の献立や調理は職員が中心となって、買い物や下ごしらえは利用者と一緒にやっている。刻み、ミキサー食に対応し、行事食、旬のもの、彩り、手作りおやつなどを大切にして、皆でテーブルを囲み笑い声が聞こえる楽しい食事風景となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢でミキサー食の全介助である方に対しては、食事摂取量を勘案しながら、好物のバナナやイチゴなどの口当たりの良い物を追加したりエンシュアキッドを補給する等して、栄養バランスが整えられるよう工夫に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の能力に応じ毎回美味しく食事ができるよう、義歯の状態など観察しながら、毎食後口腔ケアの援助に当たっています。拒否が強い場合は、最後に職員を代え再度アタックするなど口腔ケアに努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での排泄について声掛けを行っているが「今、出ねもの」の返答あり「じゃ、30分後また声掛けするからの」と伝えておき、再度声掛け「汚れてなかったのー良かった」と喜ぶと「私を信じて頂戴な！」との返答あり。一人ひとりのパターンに応じ手助けを行っています。	なるべくトイレで排泄が出来るように一人ひとりに合わせた声掛け誘導や、排泄用品を変えてみるなどの取り組みをして現状維持を保つようにしている。利用後レベルアップした例もあり、穏やかに精神的な安定にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示に従い、一人ひとりに応じた排便コントロールを行い、快適な生活が得られるよう援助に当たっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の入浴者に「今日のお風呂の色は何色が良いか？」と選択してもらい楽しめるよう努めています。また、体感清潔保持に努め、寝たきりの方でもシャワー浴介助を二人介助で行ったり、困難な場合は全身清拭にて、爽快感が得られるよう援助を行っています。	夕方4時からの入浴で自宅での生活に近い時間帯となっている。チェア、手すり、滑り止め用ゴムマットなどを備え、安全対策にも細心の注意を払っている。職員と1対1の会話や唄を交えながら、リラックスできるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間奇声や昼夜逆転傾向の方に対しては、なるべく日中は活動的に過ごしてもらえよう心掛けたり、その時の状況により夜間照明の調節や空調管理にて、安心して安眠できるよう心掛け対応に当たっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が口の中に入れ飲ませたつもりでも、後ろを向いた隙に手で口から取り床に投げつけたりする行為あり、最近では個人に応じ錠剤をつぶした状態で服用してもらう等、確実な服用援助に当たっています。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやタオルをたたむ、テーブル拭きやお茶碗拭きなどそれぞれ出来る方に協力してもらい、役割を担ってもらうことにより意欲向上や気分転換に繋げている。最後には必ず「ありがとう、とっても助かった」とねぎらいの言葉を添えて次に繋がるよう心掛けています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く爽やかな時は、帽子をかぶせ車椅子4台準備行い7名までは途中で乗り換えたりしながら施設一周コースや隣公園の東屋まで散歩にでかけ気分転換に努めている。道なり畑にいる方にも声掛けたり花を頂いたりすることもありました。また、タンポポや雑草の花を摘み持ち帰り小さな花瓶に飾る等し、季節を感じながら楽しめるように援助行っています。	地区の図書館を定期的に訪問し、また週3回の食材買い出しには利用者が交替で同行して、それぞれの職員や地域の方と顔馴染みになっている。併設のデイサービスの花見見物や外食に同行し、一緒に外出を楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホーム独自では花見に行けるレベルが乏しく、併設のデイサービスの方達に混ぜてもらい、昼食兼ねながら数名出かけている。その際お小遣いを持たせ、留守番している他の利用者や職員に対し毎回出かける度、お土産を買い求めて帰ってくる。本人も「何を買おうか選ぶのが楽しみなんですよ」と話してくれる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	限られた利用者より「娘に用事あるので電話して欲しい」などの希望があった場合は直ぐに対応行うなどの援助に当たっています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の自宅にある、花や鉢などを定期的に持ち寄り、季節感が味わえるよう心掛けています。また、季節ごとの職員と利用者の方達と共に作った、花や風景の貼り絵を一緒に飾って眺めたりしています。利用者の方にとって、食堂ホールの椅子の配置やテーブルの向きなど、認知レベルや性格を配慮した上で、どうしたら穏やかに安心して過ごせるか？、日々職員同士の情報を取り入れ相談しながら対応に当たっています。	干支や生花、手作りの飾り付け、日めくりカレンダー、献立表などから季節が感じられる。日中はホールで過ごす方がほとんどで、スペース的にも家庭的な雰囲気の中で利用者と職員が一つの家族のような「穏やかな生活」を送っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が狭く、一人ひとりの居場所はほとんど無いが、玄関前の廊下にソファが置いてあり、決まった方がほぼ同じ時間に昼寝したり、利用者同士で自宅の事や心配事を相談したり、手狭ながら個別空間となっています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分だけの空間、本人の意思決定を尊重行いなるべく希望に沿えるよう努めています。しかし入居して7年経過しオシャレで素敵だった方が、準寝たきり状態に至ってしまった今、娘さんの協力も得ながら「きっと、こうして欲しいのかなー」と本人の思いを検索しながら援助に当たっています。	馴染みの物を持ち込みその人らしい居室作りを心がけている。ベッドの位置や手すり、夜間のセンサー利用など安全で安心して快適に過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	朝10時、居室内及び廊下の清掃時、出来る方には行動を共にし、モップで廊下をなでてもらったり自室をほうきではいてもらったり、自分のリネン交換を職員と一緒にしたり可能なことは継続できるよう努めています。			